

# 日本衛生動物学会山口大会

(公社) 東京都ペストコントロール協会 副会長・機関誌編集委員長 元木 貢

日本衛生動物学会は、第2次世界大戦中の昭和18年に発足し、カ、ハエ、ダニ、ネズミなど重要な感染症を媒介する衛生昆虫・動物、毒蛇、蜂、毒蛾などの有毒動物、ゴキブリ、ユスリカなどの不快昆虫類を研究対象とする衛生動物学の進歩、普及を図る事を目的として活動している学術団体です。毎年、大会を開催し、年4回学会誌を発行しています。ペストコントロール業界のシンクタンクとなっており、会員の先生方には協会理事、講習会の講師や協会誌に投稿していただいています。

第71回日本衛生動物学会大会が山口大学において、平成31年4月19日～21の日程で開催されました。

山口市は、山口県の中央部に位置する市で、同県の県庁所在地です。長州藩における討幕運動の拠点となった歴史の町であり、大学に近い湯田温泉にはあちこちに明治維新の史跡がみられます。長州藩の藩校であった明倫館は藩庁移転に伴って萩から山口に移転、旧制山口高などを経て、現在の山口大学へとつながっています。



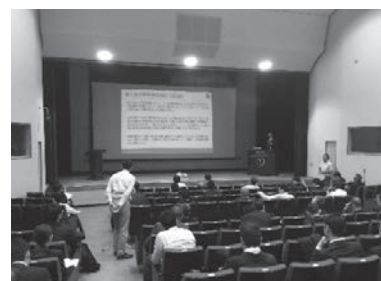
大学正面玄関

**開催日** 平成31年4月19日(金)～21日(日)  
**大会長** 前田 健(山口大学共同獣医学部獣医微生物学研究室)  
**会場** 山口大学吉田キャンパス

## 殺虫剤研究班2019年集会

**開催日** 2019年4月19日(金) 13:00-16:00  
**会場** 山口大学会館大ホール

- I. 新規殺虫剤テネベナール(一般名プロフラニリド)について  
佐藤一行(三井化学アグロ)
- II. 忌避剤/空間忌避剤の試験法について
  - (1) 忌避試験法 佐々木 智(フマキラー)
  - (2) 飛来阻止試験法 引土 知幸(大日本除虫菊)
  - (3) 侵入阻止試験 東 邦昭(アース製薬)
  - (4) 生地の防蚊性試験法 倉本 幹也(カケンテストセンター)



- Ⅲ. 築地ネズミ対策 谷川 力(イカリ消毒)
- Ⅳ. 防疫用殺虫剤の現状と問題点 佐藤裕蔵(住化エンバイロンメンタルサイエンス)
- Ⅴ. 総合討論

## 本大会

- 日 時 4月19日(土) 一般講演、総会、シンポジウム  
4月20日(日) 一般講演、市民公開講座



本大会会場



一般公演

## 学会賞・佐々賞授賞式／受賞講演

本大会の佐々賞、学会賞はいずれもPCO関係者が受賞しました。

佐々賞：薬剤散布によるヒトスジシマカの防除と非標的生物への影響

○木村悟朗(イカリ消毒株式会社技術研究所)

佐々賞：千葉県勝浦市小羽戸地区のサワガニにおけるウェステルマン肺吸虫  
メタセルカリアの感染状況

○坂西梓里(麻布大学 生命・環境科学部 環境生物学研究室)

衛生動物学会賞：グアテマラ共和国におけるシャーガス病媒介サシガメの  
分布・生態・防除に関する研究ならびに中米諸国におけ  
るシャーガス病Vector Control の指導

○田原雄一郎(公益社団法人日本ペストコントロール協会)



# 日本衛生動物学会山口大会

## 大会シンポジウム「吸血生理の温故知新」

オーガナイザー 嘉糠 洋陸(東京慈恵会医科大学 熱帯医学講座)

- ・ハマダラカの吸血・病原体媒介機構の研究 山本大介(自治医科大学医学部医動物学部門)
- ・サンショウバエ唾液の生理活性 加藤大智(自治医科大学 感染・免疫学講座 医動物学部門)
- ・マダニにおける原虫の介卵伝播メカニズム 白藤梨可(帯広畜産大学 原虫病研究センター)
- ・マダニ刺咬症のヒトにおける免疫応答 橋爪秀夫(磐田市立総合病院皮膚科)

## 市民公開講座「マダニが運ぶ感染症から身を守れ！」

オーガナイザー 前田 健(山口大学共同獣医学部)

- ・マダニの生態とマダニ媒介性細菌感染症 高野 愛(山口大学共同獣医学部)
- ・国内におけるマダニ媒介性ウイルスの実態 下田 宙、前田 健(山口大学共同獣医学部)
- ・重症熱性血小板減少症候群を知ろう！～その病態と医療の取り組み～  
高橋 徹(山口県立総合医療センター血液内科)
- ・重症熱性血小板減少症候群ウイルスの最新の知見 下島昌幸(国立感染症研究所 ウイルス第一部)

## 一般講演

以下、PCOに関係の深い演題と講演者を紹介します。

### (蚊)

- ・マストラッピングによるヒトスジシマカの防除 木村悟朗(イカリ消毒)
- ・雨水マスの殺虫剤処理がヒトスジシマカ成虫のトラップ捕集数に与える影響  
津田良夫(国立感染研)
- ・新宿区内における感染症媒介蚊の捕集状況(平成27年～30年)  
井口智義(東京都健康安全研究センター)
- ・東京都における平成30年感染症媒介蚊サーベイランス結果(その1)  
田中優(東京都健康安全研究センター)
- ・東京都における平成30年度感染症媒介蚊サーベイランス結果(その2)  
高橋久美子(東京都健康安全研究センター)
- ・2018年ヒトスジシマカの分布北限調査 前川芳秀(国立感染研)
- ・2013年から2015年に成田国際空港で一時繁殖が確認されたネッタシマカ3集団の殺虫剤抵抗性遺伝子  
葛西真治(国立感染研)
- ・防疫用殺虫剤の新用量または低薬量によるヒトスジシマカに対する実地試験効力—2018年の結果—  
皆川恵子(日本環境衛生センター)
- ・ネッタシマカ幼虫防除剤SumiLarv 2MR の長期残効性能  
大橋和典(住友化学)

- ・エトフェンプロックスを有効成分とする水性乳剤の蚊幼虫に対する防除効果 藤野 裕(三井化学アグロ)
- ・屋外のヒトスジシマカ成虫に対する防除作業機器の検討 佐々木 健(東京都ペストコントロール協会)

## (ネズミ)

- ・クマネズミのゴキブリ食に関する研究 小松謙之(シー・アイ・シー)
- ・築地市場閉場に伴うネズミ防除 谷川 力(イカリ消毒)

築地市場閉鎖に伴い、その5カ月前から閉場後1か月までネズミ防除を行った。防除方法は粘着トラップ・カゴトラップ及びワルワリン毒餌で、総計3,162匹のネズミを回収した。捕獲されたネズミはドブネズミがほとんどで、クマネズミも少数捕獲されたが、ハツカネズミは捕獲されなかった。

## (アリ)

- ・ビフェントリン・エアゾール剤のヒアリ、外来アリ等に対する殺虫・忌避効果 富岡康浩(イカリ消毒)

## (殺虫剤)

- ・新規殺虫剤 テネベナールTM (一般名プロフラニド)のゴキブリに対する効果 川瀬あゆみ(三井化学アグロ)  
テネベナールは三井化学アグロが開発した哺乳類に毒性が低い新規原体で、ゴキブリ、ハエ、カ、ダニなど幅広い効果を有する。とくに、抵抗性のチャバネゴキブリ、トコジラミ、ネッタイトコジラミに対しても有効である。
- ・シラミダニ刺症の2例 安西三郎(安西皮膚科)

## (その他)

- ・18年間で報告した結果からみる衛生害虫の動向 石川 敬(ビー・エム・エル)
- ・洗濯工程におけるコロモジラミの卵に対する影響について 池田直子(大阪製薬)
- ・沖縄県におけるアタマジラミ症治療薬に関するモニター調査 田丸友裕(大日本除虫菊)
- ・ネッタイトコジラミのアセチルコリンエステラーゼ阻害剤抵抗性に関連する作用点変異 富田隆史(国立感染研)

## 懇親会

開催日 4月20日(土)  
会場 ホテルニュータナカ



沢辺学会長挨拶



前田大会長と研究室スタッフ